

令和3(2021)年度 高II SS科学探究I(課題研究) 自己評価表②
 【実践ルーブリック】 2022年2月実施

()組()番 ()班 氏名()
 指導教員()先生)

実験開始前の計画段階から2学期の実験、その結果を分析する段階においての各自の行動について評価しなさい

評価項目/ PDCAサイクル	確認項目	評価の内容	評価内容(完全一致である必要はありません)					評価	
			5	4	3	2	1		
D 実験結果と考察・C ふりかえり	① 結果から導かれた論理的な結論	実験や観察から得られた結果をもとに考えが進められている	結果をもとに論理的に考えを進めることができているか	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が、論理的に一貫性のあるものになり、わかりやすく明確に説明できた。	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が、論理的に一貫性のあるものになった。	得られた研究結果から導き出された結論に、論理的に矛盾があったが、指導教員や他者からの指摘を受けて修正できた。	得られた研究結果から導き出された結論の一部に、論拠や根拠が不十分であったり、飛躍があったりする。	得られた研究結果から導き出された結論の一部に、論拠や根拠が不十分であったり、飛躍があったりする。	
	② 結論の導き方	結論に対して、全メンバーの意見を元にした議論を行っている	班員全員で結論を考えられているか	結論について、他のメンバーと十分に議論を重ねた。指導教員にも結論についての助言を仰いだ。	結論について、他のメンバーと十分に議論を重ねた。	結論について、他のメンバーと議論を重ねようとしたが、十分と言えるものではなかった。	結論について、他のメンバーと十分に議論を重ねようとしたが、一部メンバーの不参加など総意とは言い切れない。	結論について、他のメンバーと議論することはまったくなかった。	
	③ 結論の有用性	導かれた結論は、社会的または学術的課題の解決につながるものである	結論の一步先を考えられているか	得られた結論は、これまでに解決できなかった社会的・学術的課題を解決するものであり、大きな技術革新につながるものである。	得られた結論は、これまでの実験手法の改良や社会をより良くする工夫などにつながるものである。	得られた結論は社会をよりよくするものにつながると考えているが、まだしっかりと結びつけられていない。	得られた結論は社会をよりよくするものにつながる可能性があるが、班内で深く議論していない。	得られた結論と社会・学術との関連性をまったく考えなかったorまったく関連性が見いだせないものであった。	
	④ 目的・仮説の検証	研究当初に立てた目的や仮説に対する「答え」が導かれている	目的・仮説と結論に齟齬がないか	目的・仮説を検証する結論が十分に得られ、論理的に説明できる。(または、そのような結論に達していないため、追加実験を検討している。)	目的・仮説を検証する結論が得られ、ある程度は論理的に説明できる。(加えて、さらなる追加実験を検討している。)	目的・仮説を検証する結論が得られ、ある程度は論理的に説明できる。(追加実験は考えていない。)	目的・仮説を検証する結論は得られず、追加実験を検討することもなかった。	目的・仮説と、得られた結果を照らし合わせて考えることをしなかった。	
	⑤ 追加実験の検討	結論とともに現れる「新たな問い」に対する適切な対応ができている	さらなる探究活動に取り組もうとしているか	結論をふまえ、必要であると考えられる追加実験を考え、実施した(継続中である)。または、十分な実験が行えたため、追加実験は不要と判断した。	結論をふまえ、必要であると考えられる追加実験を考えており、手順などを模索している。	結論をふまえ、追加実験が必要であると判断しているが、具体的などのようにするかはまったく決めていない。	結論をふまえると、追加実験を行った方がよいと考えられるが、さらなる実験は計画していない。	追加実験が必要かどうか、議論することはなかった。	
	⑥ 実験や観察の方法	実験・観察の方法を正確に伝えられている	実験手順について、わかりやすく伝えられているか	図や写真を効果的に用いて、実験方法をわかりやすく説明することができた。加えて、指導教員や他者よりわかりやすいとの評価をもらった。	図や写真を効果的に用いて、実験方法をわかりやすく説明することができた。(他者からの評価はもらっていない。)	必要に応じて図や写真を用い、実験方法をわかりやすく説明することができた。	記述した実験方法そのものに手順のミスや誤りが含まれており、それを修正することがまだできていない。	記述した実験方法が、まだ研究動機や目的に合っていない。	
	⑦ 結果や考察	結果や考察が読者に正しく伝わる	結果と考察について、わかりやすく伝えられているか	図やグラフ・写真を効果的に用いて、結果をわかりやすくまとめることができ、加えて、指導教員や他者よりわかりやすいとの評価をもらった。	図やグラフ・写真を効果的に用いて、結果をわかりやすくまとめることができた。(他者からの評価はもらっていない。)	図やグラフ・写真を用いて、結果をわかりやすくまとめることができた。	結果に一部不備はあったが、その原因は追及することができた。	結果を出すことができず、まだ原因も追及できていない。	
	⑧ 研究内容に関する知識	自分の班の研究内容について深く理解している	十分な知識を持って実験に臨めていたか	研究内容に関する知識を十分に持ち、この研究結果が社会的貢献につながることも説明できる。	研究内容に関する知識を十分に持ち、研究の目的や動機に関連づけながら説明することができる。	研究内容に関する知識を持ち、研究の目的を理解しているが、それらに関連づけて説明することはできない。	研究内容に関する知識に多少の不安はあるが、最低限の説明はできる。	研究内容に関する知識が乏しく、説明をすることができない。	
	⑨ 研究内容に関するプレゼンテーション	自分の班の研究内容を口頭で説明することができる	研究内容をわかりやすく説明できるか	多人数の聴衆の前でも研究内容を理路整然と一人で説明できる。	2~3人程度の少人数のグループであれば、研究内容を一人で説明できる。	個人対個人であれば、研究内容を一人で説明できる。	研究内容は理解しているが、一人ですべてを説明することはできない。	研究内容を理解しておらず、一人ですべてを説明することができない。	
	⑩ 研究内容に関する質問に対する応答準備	自分の班の研究内容に関する質問に対し回答することができる	研究内容に対する質問に適切に回答できるか	相手の質問内容は予測しているので、どのような質問であっても自信を持ってハキハキと回答できる。	ほとんどの質問に対しては回答が可能である。	一人で回答できる質問もあるが、一部の回答には班員の助けが必要である。	ほとんどの質問に対し一人で回答することは難しいが、班員の助けがあれば可能である。	研究内容に対する質問に回答することは、全くできない。	

評価合計